

「漢字は「楽しく」「個別指導」

組織局長 おもちや箱 岡本 美穂

子どもというのは、漢字テストで百点をとれた、という事実だけで国語が好きになることがあるのだと子どもたちから学びました。それはつまり、「漢字が苦手」と子どもが思ってしまった時点で、そのまま国語に対するやる気もどんどん失われていくということなのです。

では、どうすれば漢字を苦手と思わずに、やる気をもって取り組むことができるようになるのでしょうか。

「漢字テストで百点を初めてとりました。」

と言つて子どもが帰りました。市販のテストにある五十問テストに取り組みました。今までは、五十問テストをそのまま印刷しきつちり覚えるようにさせていました。そこには自信をつけさせたい、という願いがありました。ただ、5年生の担任をしている今、このまま中学生になると期末テストで全く点数の取れない子どもになってしま

うのではないか？という疑問がうまれはじめました。そこで今回は今までとは違う方法で行いました。すると、漢字の覚え方をきつちり子どもに伝えるのも教師の役目、これが一番の発見でした

中学生になったとたん、成績が落ちてしまふということを知ることがよくあります。なぜなら小学校でのテストは単元ごとになるので、ある程度の理解で、八割は解けるように作られているからです。しかし、中学生になるとそういうわけにはいかず、テスト範囲が広がるうえ、理解力もかなり求められます。ではどのような子どもたちが、そういう状態で結果を出していくのでしょうか。

それは、勉強の仕方が定着している子どもたちです。ですから、勉強方法を小学生の時に指導してあげることが非常に重要だと感じています。その最初の取り組みとして、漢字テストは有効です。やれば結果が

すぐに出来ます。努力と結果が正比例するものは子どものやる気につながりやすいです。**漢字テストの行い方**

漢字テストの範囲を前もって子どもたちに伝えます。

「教科書の p〇ページから p〇ページまでをテスト範囲にするから漢字テストの勉強をしましょう。」と伝えます。

その際、子どもたちの勉強方法は四つにわかれることが多いです。

1. 机などに漢字を書く「指書き」、
 2. 自分でテストのように問題を出しながら漢字を覚える。
 3. 友達に予想を出してもらって書く。
 4. 何も書かずに教科書を眺める。
- 2と3を組み合わせてできることを最終目標として指導していきます。高学年ならこのようなテスト対策向けの勉強の仕方を教えることも大切な役目です。

読みかえ漢字で楽しく短文づくり

教科書に出てくる新出漢字の数などそんな

なに多くはありませんので、勉強の仕方を教える際には、ちょうどよいのです。勉強の楽しさをどの子にも感じてもらうのであれば、みんなが持っている教科書で、努力と結果が正比例する経験を積み重ねていくことが、漢字の習得だけでなく、その奥にある、子どものやる気につながっていくと信じています。

読みかえ漢字で楽しく短文づくり

というものがあります。教科書に出てくる言葉を使って短文を作ります。いつでも、どの学年でも実践可能です。これは、一つの文の中でできるだけ多くの漢字を使えるように文を作ります。またその中で音読みと訓読みの両方を使えるように指導します。子どもたちには、始める前に例文を示します。

(参考資料)「だれでもできる学力づくり」桐書房

例

①花よめさんが、きれいな着物を着て、けっこん式場に着きました。

②おなかいたで苦しんだよへ日、いつも苦労した苦手な算数が苦もなくできて、思わず苦わらいました。

応用…

一つの文章中にいくつの漢字を使ったか、その数で評価を決めるような刺激をたまに与えることもあります。

1〜 5こ レベル1
6〜10 レベル2
11〜15 レベル3
16〜20 レベル4
ここまでいく

と「神様レベル」なんて言ったりもしています。

漢字の読み⇨音読がカギ

いつもの音読を新出漢字の読みを習得する…という裏の目的を作って実際にやってみました。すると思っていた以上の力が、少しの工夫で身につけていたことに気が付きました。

国語の教材文を使って音読を始めます。

①範読

わからない読み方があれば、振り仮名をうって良いと伝えます。

②音読練習

連れ読み、リレー読みなどいつも通りに行います。ここまでは、どの学級でも同じだと思いますが、次からのちよっとした工

夫で大きく変わります。

③音読を一人ずつ聞く。

私は宿題で音読を出しません。その代わりに、給食の準備中や、登校してすぐなど、個別に直接音読を聞く機会を持ちます。その際、子どもの教科書を使って音読はさせません。教師用の教科書を貸して読むように伝えます。

先生 「○ページ、○段落読んでみて。」

子ども 「はい。」

音読

先生 「引かからずに読めていたね。よく練習したのわかってうれいな。」

などと評価をします。この際、新出漢字が出てくる読みのところを中心に聞いていくとよいでしょう。

教師用の教科書には振り仮名などは一切書いていません。知らない間に子どもたちは読みテストをしているのです。もし、音読で引つかかってしまう部分があった場合は、その子どもの教科書に線を引くなどして、チェックを入れるようにしています。漢字は「楽しく」「個別指導」が重要です。